

石川県立看護大学附属地域ケア総合センター

# 事業報告書

第19巻

令和3年度

石川県立看護大学附属地域ケア総合センター



## 巻 頭 言

令和3年度は前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行し、人と人のソーシャルディスタンスと会話時のマスク着用が奨励され、地域ケア総合センターの活動が影響されました。デルタ株による第5波、オミクロン株による第6波と波状に流行が高まり、国や自治体から警告が発せられました。本学でも国や石川県の方針に歩調を合わせ、この感染症の予防を最優先に掲げ、教員が地域に出かける活動、学生が地域をキャンパスとして学ぶ活動のいずれにも制限を加えてきました。

一方で、ワクチン接種が始まったことや新型コロナウイルスの特徴への理解が進み、前年度のような心理的なパニックは低減し、人との交流を重視する地域ケア総合センターの活動においても、やや落ち着いて目的に応じた活動体制を整えるゆとりが生まれました。さらに、本学教員は、前年度の経験から、非対面でも可能な教育方法やそのための教材づくりの技術を高め、様々なアイデアでの活動が可能となってきました。また、コロナを機に、教育機関以外のさまざまな機関でIT環境の整備が一挙に進みました。

そのような状況から、直接的に対面で交流／会議をする必要に迫られる場面では、人数に見合った十分な広さのある部屋で、マスク着用と定期的な換気を徹底することで対応し、非対面でも可能であると思われる交流においては、ZoomをはじめとするITを活用した画面を通じた交流を行いました。その詳細な内容、やり方については本誌をお読みいただきたいと存じます。

教育機関にとって新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、多感な年代の学士の人間関係づくりに多大な影響を及ぼす深刻な存在となっています。また、地域の方々から教えていただく学びも学生の今後の人間形成や看護職としての基盤に欠かせないものだと考えられます。コロナの影響を受けた学生たちの今後が大変気がかりです。しかし一方で、センターの活動にとってはポジティブに捉えることができる側面もありました。それは、遠隔型、ハイブリッド型の研修では参加人数が増えるという傾向があり、ITを活用することによって移動時間の節約になること、気軽に参加していただけるのではないかと考えられることです。これまで当たり前に従来の方法を踏襲していましたが、これからは皆様の参加しやすい活動方法を取り入れていきたいと思えます。

最後に、このセンターの活動を応援して下さった地域の皆さまの励ましと協力に感謝を申し上げますとともに、センター長をはじめとしたこのセンターにかかわる教職員の頑張りにも感謝します。

石川県公立大学法人 石川県立看護大学  
学長 真田 弘美

## ご挨拶

日頃から、石川県立看護大学附属地域ケア総合センターの事業にご協力いただき、誠にありがとうございます。

2021年度は、企画段階から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染予防対策を準備していた関係で、ほとんどの事業を開催することができたと思っており、人材育成事業として8事業（予定8事業）、地域連携・貢献事業として10事業（予定12事業）、国際貢献事業としては1事業（予定1事業）を実施しました。

また、大学コンソーシアム石川地域連携専門部会では、今年度は新たに「石川未来プロジェクト」の公募が行われたが、本学からも2名の学部生が参加し、大きな成果をあげてくれました。また、令和3年度地域課題研究ゼミナール支援事業についても、地域共創支援枠と地域課題発掘枠に応募し、2つのゼミが採用されました。

地域連携・貢献事業では、今年度も能登を中心とした祭りや健康支援の企画は実施できませんでしたが、かほく市のいきいきステーションと協力した「いきいき世代とつくる健康教室」を4回実施し、かほく市の住民の皆様方に本学の知見を還元することができました。

人材育成事業では、主に継続事業として、事例検討会を中心に、開催することができました。

国際貢献事業のうち、JICA日系研修については昨年度の工夫を活かし、リモートにより開催し、5名の研修生を対象に実施することができました。また、草の根研修事業については、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な感染拡大の影響で、昨年からの延期となっておりましたが、その実施に向けて計画書の修正を行いました。JICAと相談しつつ実施に向け、引き続き検討していく予定です。

このように、コロナ禍の状況の中、本来の地域ケア総合センターで実施すべき事業は開催できませんでしたが、こういう状況の中だからこそ、本学の地域ケア総合センターで実施できることを見極めて、地域の皆様方の健康維持のためになすべきことを検討する年になったと思っております。今後も、様々な手法を取り入れ、地域に開かれたセンターを目指していきたいと思っております。

石川県公立大学法人 石川県立看護大学 附属地域ケア総合センター  
センター長 塚田 久恵

# 目 次

(ページ)

1	人材育成事業	
1-1	専門職研修	
1-1-1	在宅医療移行支援を推進するための看護管理の再考	1
1-2	本学教員主催の研究会・事例検討会	
1-2-1	多職種連携のための事例検討	2
1-2-2	ペリネイタル・グリーフケア検討会	3
1-2-3	新任保健師卒後スキルアップ研修会	5
1-2-4	新任助産師のスキルアップ支援	6
1-2-5	褥瘡管理のスキルアップ支援	7
1-2-6	精神科病棟で働く新人看護師による事例検討会	8
1-2-7	看護研究に活かせる現象学を楽しく学ぼう	9
1-3	相談サービス事業	
1-3-1	各種研修会等への講師派遣事業	11
1-3-2	病院への事例・看護活動・研究等の指導助言実施状況（再掲）	12
2	地域連携・貢献事業	
2-1	地域連携・貢献事業	
2-1-1	子育て「どろっぷ・イン・さろん」	13
2-1-2	あかちゃんをお空へみ送られた方の自助グループに対するサポート活動	15
2-1-3	いきいき世代とつくる健康教室「地域公開講座」	17
2-1-4	終末期看護実践の悩みを共に語り心も体もリフレッシュ	19
2-1-5	能登の祭り応援事業	21
2-1-6	わたしと地域の未来を変革するSDGs	22
2-1-7	パーキンソン病いきいきリハビリ教室	24
2-1-8	市民防災講座	26
2-1-9	コロナ禍における職場の感染対策と事業継続	28
2-1-10	ひとりで悩まないで！子どもをもつ乳がんサバイバー同士で語り合おう	29
3	国際貢献事業	
3-1	JICA 日系研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」コース	31
4	その他	
4-1	かほく市との包括的連携協定に関わる取り組み	35



# 1 人材育成事業





## 1-1 専門職研修

### 1-1-1 在宅療養移行支援を推進するための看護管理の再考

企画担当：石川倫子 / 基礎看護学講座 准教授

#### 1. 事業の目的

能登北部地域の住民が最期までこの街で生き残るための在宅療養移行支援システムを創るための看護管理者の役割・機能を再考する。

#### 2. 実施状況

<第1回 講演会>

日時：10月9日（土）13:00～15:00 Webにて開催

講演：「地域包括ケア推進のための政策」講師：倉下陽子（石川県医療対策課）

「在宅療養移行支援を推進するための看護管理者の役割」

講師：石川倫子（石川県立看護大学）

参加者：52名

<第2回 シンポジウム>

日時：11月13日（土）13:00～15:00 Webにて開催

テーマ：「つながる・ささえる・つくりだす在宅療養移行支援システム」

座長：出口まり子先生（小松市民病院）、竹田昌代先生（石川県立看護大学）

##### I. 入退院支援の活動からつなぐ看護

講師：山中由貴子（公立羽咋病院 医療サービス推進室室長）

村井美智子（公立羽咋病院 看護師長）

##### II. 訪問看護から見た病院の在宅療養移行支援に望むもの

講師：小堀慶子（合同会社 愛笑 訪問看護管理者）

参加者 64名

#### 3. 実施内容

第1回の講演では、石川県の地域医療構想とその根拠となるデータが説明され、参加者は、今後の能登北部地区の在宅療養移行支援の課題とその解決策のイメージができた。特に、人口減少による支援課題から医療と介護の「連携」ではなく、「統合」をしていく必要があるという意見があった。看護管理者として「どうありたいか」「なりたい姿」を目標に対話していく看護マネジメントの重要性を実感されていた。

第2回のシンポジウムでは、公立羽咋病院での「入退院支援活動からつなぐ看護」として、患者と看護師の対話、看護師と多職種の対話から患者の願いを継続できるシステム（入退院支援シートとつなぐ看護シートの連結等）が紹介された。訪問看護管理者からは「家に帰るのがゴール」ではなく、家で本人が「何をしたいのか」を知ることが患者の願いを叶えると話された。改めて「患者・家族への在宅療養移行支援」とは何か立ち戻る機会になった。看護管理者が行う対話、それがビジョンの実現につながることを再認識した。

#### 4. 評価と今後の課題

石川県内の病院実践例を看護管理者が知ることによって、各地域の特徴に適したシステム創りの手がかりをつかんだ。この手掛かりから各病院独自の在宅療養移行支援システム創りの活動を行う予定であり、それを報告し合いシステム構築の一助としていきたい。

## 1-2 本学教員主催の研究会・事例検討会

### 1-2-1 多職種間連携のための事例検討

企画担当：中田 弘子 / 基礎看護学講座 教授

#### 1. 事業の目的

本事例検討は、病期と生活の場が移行し、多重課題を抱える対象へ最善のケアを提供するために、スペシャリストとジェネラル・ナース、多職種間が連携して、対象特性を的確に捉えること、看護実践を適切に評価することを支援することにある。

#### 2. 実施状況

日程

第1回目：2021年8月7日（土）13時30分～16時00分（講師・チューター：中田弘子他）

第2回目：2021年11月28日（日）13時30分～16時00分（講師・チューター：川島和代他）

#### 3. 実施内容

年2回的事例検討は、新型コロナウイルスの感染状況に応じた開催方法とした。第1回目はオンラインで24名、2回目は対面で37名、計61名の参加者数であった。いずれも臨床から要望があった1事例を教材化した。事前のチューター会議では事例検討と同様の方法とした。第1回的事例検討ではブレイクアウト機能により5グループ、第2回は7グループに編成し、各グループにファシリテーター役のチューター1名を配置した。進行は情報共有、グループワーク、発表、まとめとした。対面では感染対策に十分な注意を払って実施した。第1回では薬剤師、メディカル・ソーシャルワーカー等の申し込みがあったが、当日参加は叶わなかった。

参加者アンケートでは、理解度、満足度は「高い」、「やや高い」を選択した人が8割であり、実施方法については概ね良好であった。自由記載では「多重課題を抱える複雑な事例について具体的な解決策までの思考のプロセスが理解できた」、「煩雑な臨床では事例を丁寧に検討する時間がないため有意義だった」等の回答がみられた。

#### 4. 評価と今後の課題

本事業名は2021年度より「ジェネラリストのための事例検討」から「多職種間連携のための事例検討」へ、対象を看護職・看護教育職等から看護職、介護職、薬剤師、ソーシャルワーカー、理学療法士、医師等に拡大した。オンラインでは通信環境やデバイス等の課題があり、当日は欠席となった。また、2017～2019年度の平均参加者数は80名/年であったが、2020年度のオンラインでは40名/年に減少し、2021年度の対面では参加者数の回復がみられた。つまり、感染状況にはよるが、なるべく対面で開催することが参加者数の維持に影響するのではないかとと思われる。

本事例検討は今年度で11年目を迎えるが、対象等の拡大による評価については、経年的な検討が必要なのではないかと考えられる。



2021.11.28 事例検討（対面）の様子

## 1-2-2 ペリネイタル・グリーフケア検討会

企画担当：氏名 / 米田 昌代 / 母性看護学 教授

### 1. 事業の目的

グリーフケアの実践を学び、地域連携の構築をはかることによって、ペリネイタル・グリーフケアの充実をはかる。

### 2. 実施状況

第25回 日時:令和3年7月18日(日)13:30~16:00 WEB会議システム Zoom で開催

テーマ 「ガイドラインと体験者との交流でペリネイタル・グリーフケアを見直そう」

スケジュール 13:30~13:45 情報提供

・エビデンスに基づく助産ガイドライン

周産期喪失に関するクリニカル・クエスチョン(CQ303~305)について

・厚生労働省通達 流産や死産を経験した女性等への心理社会的支援 について

13:45~14:40 8名の体験者の方々のお話

体験の概要 看護者に望むこと 現在の活動等

14:50~15:15 施設間交流 4~6人×6G 体験者間交流

15:15~16:00 全体交流 講師からのコメント 次回のお知らせ

参加者 30名

第26回 日時:令和4年2月20日(日)13:30~16:00 WEB会議システム Zoom で開催

テーマ 「他県のグリーフケアの活動を知って、退院後の連携を考えよう

～小さなお星さまの会(岩手県)～

講師 小さなお星さまの会 スタッフ(体験者) 岡田 源子 氏

岩手県立大学 母性看護学・助産学講座 木地谷 祐子 氏

スケジュール 13:35~14:10 体験談(年数が経っても変わらぬお子さんへの想いと次子妊娠に向け歩み始めた軌跡等)

14:10~14:50 講演 小さなお星さまの会の活動について

15:00~15:25 グループでの話し合い

(5人ずつに分かれて自己紹介・意見交換・共有)

15:25~16:00 全体共有・講師からのコメント 次回のお知らせ

参加者 34名

### 3. 実施内容

#### 第25回

日本助産学会から出されたガイドラインに周産期喪失に関わる内容が加わったことを知るとともに、体験者の生の声も聴くことによって自分たちのケアを見直してもらおうという意図で企画した。

最初に米田から上記、情報提供とともに流産や死産の支援が重要視されてきた流れについて説明した。その後、赤ちゃんを亡くされた体験者8名の方に体験の概要、看護者に望むこと、現在の活動等についてお話いただき、体験者の方同士、施設の方々は6グループに分かれて、意見交換を行った。話し合いの後、各グループごとに企画委員から話し合われた内容や出された質問を発表していただき、それに対して体験者の方々に答えていただいた。

#### 第26回

岩手県で長く赤ちゃんを亡くした方への自助グループを運営しているちいさなお星さまの会のスタッフ(教員と体験者)の方にお話しいただき、退院後病院から地域への連携をどのようにし

ていけばよいか考える場になればという意図で企画した。今回は、連携を考えるということで、行政の保健師さんや自助グループの運営をしている方々の参加も募った。

体験者の岡田源子さんから体験談を語っていただいた後、岩手県立大学 看護学部 母性看護学・助産学講座 講師 木地谷祐子氏に設立経緯、活動の実際、現状や今後の課題についてお話いただいた。その後、6グループに分かれて、お話を聞いての感想、質問とともに、病院と地域（行政・自助グループ）が連携するためというテーマで話し合っていた後、各グループごとに話し合われた内容や出された質問を共有・発表し、講師にコメントしていただいた。

#### 4. 評価と今後の課題

今年度もコロナ禍が持続しており、Zoomでの開催であった。2年目ということで、参加者も慣れてきており、当日大きなトラブルもなく、進行できた。また、講師も含め、遠方からの参加が可能となり、他県の人々との交流をすることもでき、有意義であった。

##### 第25回

開催後のアンケート結果から、全参加者が内容・方法に関して満足と回答し、今後に活かせるかと回答していた。感想として「実際に経験者の方の話を聞きケアに活かせることを学ぶことができた。また患者さんとの関わりの中で疑問に思うことを他の施設の方と色々話して共有できるのがとても学びになった」「Zoomだったため、遠くの方の話も聞くことができた」「流産、死産、生後に亡くされた方など色々な経験者のお話を聞いてよかった」「経験者、現場、教育まで参加できて良かった」「自分の振り返りと会（自助グループ）について改めて継続方法を考えるきっかけになったことと、ケアがガイドラインとして確立されていることもわかった」等があり、支援者体験者ともに今後に活かせる有意義なものとなっていた。

##### 第26回

開催後のアンケート結果から、全参加者が内容・方法に関して満足と回答し、今後に活かせるかと回答していた。感想として「経験者の生の声を聞くことができて良かった」「Zoomでの研修は良かった。グループワークでもいろいろな立場の方の意見が聞けて良かった」「地域の保健師さんと話ができて、共感できることがたくさんあった」「他県の自助グループの活動を知れたので参考になった」「他病院の実践が知れて真似しようと思った」「会に参加される体験者のお話を、医療従事者や行政に伝えることができる立場として、これからも会を続けていきたいと思った」等があり、支援者体験者ともに今後に活かせる有意義なものとなっていた。

広報については昨年度の反省をもとに早期からのポスターを添付した広報によって、増員できた。また、Zoomでの開催についてはコロナ禍が終息しても、ハイブリッド開催等活用して遠方の人々との交流も継続していきたいと考える。来年度は、企画委員ともZoom会議等を活用して意見交換を継続し、今後も保健師さんや体験者の方々とも連携して開催していきたいと考える。



エビデンスに基づく助産ガイドライン  
—妊娠期・分娩期・産褥期 2020—  
周産期喪失に関する臨床的・クエスチョン(CQ)について

2021.7.18 第25回ベリネイタル・グループケア検討会 米田昌代  
第26回ベリネイタル・グループケア検討会 2022.02.20

ちいさなお星さまの会の活動について

おかだ みなこ  
岡田 源子  
きちや ゆうこ  
木地谷 祐子

ちいさなお星さまの会(岩手県)

## 1-2-3 新任保健師卒後スキルアップ研修会

企画担当：竹田 昌代 / 地域ケア総合センター 特任講師

### 1. 事業の目的

保健師としての実践能力を確実なものにするため、保健指導を実施するために必要な基本的な知識や技術を習得・確認するための学習会を実施し、現場で円滑な業務が遂行できるよう支援する。

### 2. 実施状況

実施場所：石川県立看護大学 地域ケア研修室

参加者数：県北部(河北郡以北)の市町に勤務する就業1年未満の保健師8名

### 3. 実施内容

- 日時：令和3年9月17日 9:30～16:30
- 内容：母子保健事業を中心とした「基本的な保健指導の実際」について

時間	内容
9:30 ～ 10:20	「意見交換会…保健師として就業して」
10:30 ～ 12:00	「乳児訪問の実際と保健指導」
13:00 ～ 14:30	「1歳半健診・3歳児健診の問診(観察ポイント)と保健指導」
14:40 ～ 15:30	「各市町の母子保健事業の情報交換」
15:40 ～ 16:30	「保健師活動を考える」保健師活動紹介(元内灘町保健師)

- 講師：石川県立看護大学附属地域ケア総合センター 特任講師 竹田 昌代  
元 内灘町保健師 本 弘美
- 助言者：石川県立看護大学 地域看護学講座 教授 塚田久恵、准教授 金子紀子、  
助教 室野奈緒子 助教 黒川恵子
- 結果：乳児訪問や乳幼児健診の問診のデモンストレーションや講義を通して、現場ですぐに役立てられるような母子保健指導の実際を学ぶとともに、各市町の母子保健事業についての情報交換を実施した。また、保健師として就業しての悩みの意見交換や先輩保健師の活動紹介を通して、今後の保健師活動を考える機会となった。

終了後の参加者アンケートからは、「同期と接することが少ないため、意見交換できる貴重な機会だった」「学生時代の実習でもここまで細かく流れや注目ポイントを教わる機会がなかったので、とても勉強になった」「保健所保健師として、地区視診等行い、広い視野が必要になると改めて学ぶことができた。」「今後の自分の活動への参考になった」等の意見があった。



### 4. 評価と今後の課題

コロナ禍にあり、今年度も対象者や内容を縮小しての研修会となったが、コロナ感染予防対策を取りつつ対面で実施できたことは、今後の同世代の保健師間の交流や、実際の実技の見聞が保健師としてのスキルアップにつながり、今後の保健師業務に前向きに取り組める動機づけの機会となったようである。

今後も、新任保健師が保健指導を実施するために必要な知識や技術に自信を持ち、保健師業務に前向きに取り組めるよう支援したい。

## 1-2-4 新人助産師のスキルアップ研修

企画担当：曾山小織 / 石川県立看護大学 助産看護学 講師

### 1. 事業の目的

新人助産師を対象にして卒後の体験を共有するとともに、妊産婦の死亡原因で多い産科異常出血時の基本的対応を身につけることを事業の目的とする。

### 2. 実施状況

2021年9月11日（土）13時30分～16時にオンラインで実施した。

助産師養成施設を卒業して1年～2年目の7名が参加した。産科異常出血時の対応をオンラインでシミュレーションするため、本学助産看護学の教員5名も参加した。

### 3. 実施内容

2部制で実施した。第1部では、座談会と情報交換を行った。座談会では、参加者が卒後に経験した内容と事例で印象的だったことを紹介してもらい経験を共有した。情報交換では、コロナ禍における妊産婦ケアのうち母子分離と母乳育児にテーマを絞り、第3次及び第2次医療機関の状況とケアの課題を参加者から話してもらった。

第2部では、産科異常出血時対応のシミュレーションを実施した。参加者同士で役割分担を行い、参加者がオンラインで指示したことを教員がシミュレーターの子に実施した。

### 4. 評価と今後の課題

開催時期について、卒後1年目と2年目の異なる年数の助産師が参加したが、それぞれが丁度良いと回答していた。開催方法はオンラインであったが、対面やオンラインとのハイブリッド方式を望んでいた。緊急時対応シミュレーションでは、オンライン上で複数の参加者が同時に指示を出しにくかったが概ね満足していた。参加者同士の情報交換では、限られた時間内で内容を深める時間が十分にもてなかった。開催時間の長さについてやや短いと回答した人もいたことから、考え方やケアの幅が広がるように話し合いの時間を工夫する必要がある。今後学習したい内容も見えてきたため、次回以降の研修会の企画に活かしたい。



## 1-2-5 褥瘡管理スキルアップ研修会

企画担当：紺家 千津子 / 成人看護学 教授

### 1. 事業の目的

本事業は、医療従事者の方々が抱える褥瘡の予防と管理に関する課題や、最新の知見に関する研修を通して、参加者各々が得た学びと気づきを実践に活用できるようになることを目的とした。

### 2. 実施状況

メインテーマ：「改定版 DESIGN-R 2020 をどう使い、どう活かすか」

開催形式：オンラインセミナー（Zoom によるライブ配信）

#### ● 第1回 2021年9月4日（土） 13:30～15:00

参加者数：85名（看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士）

プログラム：司会：大橋 史弥（石川県立看護大学 成人看護学 助教）

- ・第1部 DESIGN-R2020 になぜ変わり、どう活かすか？  
講師 紺家 千津子（石川県立看護大学 看護学部 成人看護学 教授）
- ・第2部 DESIGN-R2020 を採点してみよう  
講師 松井 優子（公立小松大学 保健医療学部 看護学科 教授）
- ・第3部 困った褥瘡のケア相談

#### ● 第2回 2021年12月5日（日） 12:00～13:00

参加者数：42名（看護師）

- ・事例検討「DESIGN-R2020 で採点してみよう」

講師 皮膚・排泄ケア認定看護師（山田ゆかり 久藤総合病院、小西千枝 金沢赤十字病院、遠藤瑞穂 公立松任石川中央病院、細川夕子 石川県済生会金沢病院、紺家千津子 石川県立看護大学）

### 3. 実施内容

オンライン開催であっても研修に参加しやすく、講演内容も理解しやすいように、第1回は事前に Zoom の使い方マニュアルと講義資料を参加者個々のメールに配信し、第2回は郵送をした。

第1回では、昨年12月に改訂された褥瘡状態判定スケールである DESIGN-R2020 に新たに追加された「深部損傷褥瘡疑い」と「臨界的定着疑い」について、さらに詳細な採点方法にポイントについて講演がなされた。さらに、希望者のみを対象に皮膚・排泄ケア認定看護師による個別のケア相談を実施し、スキンケア方法などについて参加者の方々にアドバイスを行った。

第2回では、グループに分かれ褥瘡写真を参加者と供覧しながら DESIGN-R2020 の採点を行った。各グループには講師を配置し、採点練習を行いながら、参加者の疑問などを即解決できるようにした。

いずれもオンラインによる研修会であったが、配信トラブルなく終了した。

### 4. 評価と今後の課題

多職種からの多数の参加があったことより、医療従事者の方々のニーズに合致した研修会であったといえる。また、研修会後には、実施目的の達成ともいえる「研修内容を実践で活かした」「スタッフに研修内容を指導した」などの報告があった。また、開催希望テーマなどの意見も寄せられ、開催継続の希望があった。

オンライン開催については、参加者より「遠方でも参加できる」「会場への移動の負担がない」との意見もあり、講演形式であればオンライン開催を検討していく。

## 1-2-6 精神科病院で働く新人看護師による事例検討会

企画担当：氏名 大江真吾 / 精神看護学講座 講師

### 1. 事業の目的

他施設で勤務する看護師で事例に関してディスカッションすることにより、自らの実践を振り返ること、また次の実践につながる示唆を得ることを目的とする。

### 2. 実施状況

開催日時

<第1回>7月17日(土) 13時30分～15時 オンラインシステム (Zoom)

<第2回>9月11日(土) 13時30分～15時 オンラインシステム (Zoom)

参加者

<第1回>2名

<第2回>5名

### 3. 実施内容

<第1回>

参加者とのフリーディスカッションでテーマ・事例を絞り込み、『患者との信頼関係の構築』、『精神科における倫理的ジレンマ』についてディスカッションを深めた。参加者からは、「改めて普段の患者さんへの言葉かけやケアについて倫理面から考える機会になった。」「明日からの患者さんへのかかわりへのヒントをもらった。」という声が聞かれた。

<第2回>

参加者とのフリーディスカッションでテーマ・事例を絞り込み、『保護室での看護』、『希死念慮を抱く患者さんへの対応』についてディスカッションを深めた。精神科での勤務が1年目の参加者が事例を提供し、その他の参加者がそれぞれの経験をふまえた助言を行った。

### 4. 評価と今後の課題

参加者が少ない会となったが、少人数での実施となったことでリラックスした雰囲気の中で感じている悩みや失敗談などを語る事ができたと思う。一方で、より多くの方に参加いただくことで複数の視点からの助言や各々の病院で実施されている看護ケアに関する情報交換ができたと思われる。

コロナ禍によりオンラインでの実施となった。参加者からは自宅からの参加で感染リスクを回避できることから参加しやすいという声や県外からの参加もできて良いという声もあり、オンラインでの実施(対面とのハイブリッドも含む)を考慮していきたい。

今後は定期的な活動を継続するとともに、多くの方に参加いただけるように広報活動を行っていく。



## 1-2-7 看護研究に活かせる現象学を楽しく学ぼう

企画担当：牧野 智恵 / 石川県立看護大学 教授

### 1. 事業の目的

20年程前から看護学分野での現象学を用いた研究が盛んに行われている。しかし、現象学という学問が難解であるため、看護学の分野では正しくその方法論を用いた研究が少ない。そこで、これまで現象学的方法論を用いた研究実施経験のある牧野智恵と、マルティン・ハイデッカーの専門家である高井ゆとりが、現象学的方法論を用いた研究（原著）を参加者とともに読み進め、看護研究に活かせる現象学的研究について意見交換し、理解を深める。

### 2. 実施状況

参加者が関心のある現象学手法を用いた原著論文を提示してもらい、その内容についての用語、研究方法、分析方法、内容について疑問点などについて自由に意見交換しながら現象学的研究について理解を進めていった。

### 3. 回数・開催日・実施場所（参加者数）・検討文献

第1回：5月18日(火)・看護大学内 3階会議室 (5名)

高井先生によるレクチャー：『哲学』とはどのような営みだろうか」

第2回：6月22日(火)・看護大学内 3階会議室 (5名)

「身体が織りなす看護の営み-急性期にある糖尿病足病変入院患者と看護師の関係の現象学的研究-」 榎川綾子著, 日本看護科学学会誌, VOL.40, 369-377, 2020.

第3回：8月4日(火)・地域ケア総合センター研修室 (12名)

「初めての出産, 育児をしている女性の生きられた体験」 鄭 香 苗他著, 日本助産学会誌, VOL.34.38-49, 2020.

第4回：9月28日(火)・地域ケア総合センター研修室 (12名)

「自宅で限られた命を生きるがん患者の生と死に関する体験」 京田亜由美他著, 日本看護研究学会雑誌 VOL.41, PP.959-969, 2018.

第5回：11月9日(火)・地域ケア総合センター研修室 (12名)

「他人みたいだから生きる—中枢神経障害患者のしびれている身体の経験」：坂井志織著, 日本看護科学学会誌, VOL.37, pp.132-140, 2017.

第6回：12月8日(火)・地域ケア総合センター研修室 (12名)

「想定外の大惨事で一変した暮らしから捉える糖尿病の経験—指標を記録しなかったある1名の語りから」 細野 知子著, 日本看護科学学会誌, VOL.41, pp.305-312, 2021.

第7回：2月8日(火)・完全リモートによる実施 (10名)

「超高齢者の語りにもみる生(life)の意味」 中川威, ほか著, 老年社会科学, 32(4), pp.422-433, 2011

第8回：3月8日(火)・地域ケア総合センター研修室 (14名)

「生殖補助医療の変化の中で不妊症看護を模索する助産師 ～〈とぎれた時間〉をつなぐ実践の現象学的記述～」 郷司 律子著, 母性衛生, 61(2), 2020.

### 4. 評価と今後の課題

これまで発表された看護研究（原著、研究報告）などを手がかりに、現在看護界で行われている現象学を用いた研究について、方法論は理解できるか、哲学用語は理解できるか、本当にこの方法論を使う必要があったのかなどに焦点を当て、参加者と意見交換を行った。ひとりで文献を読み中ではわかり得なかった現象学独特の用語については、高井先生からわかりやすく説明していただき、参加者は「そういう意味か」「今までひとりでは分からなかったから悩んでいたが解決した」「楽しかった」などという意見があった。これまで、現象学を用いた研究というと、用語の意味が分からず敬遠していた大学院生や教員が、少しずつ苦手意識から解放されていく様子が見られた。

かがえた。また、高井先生は、看護界の中でどのように現象学が用いられているかを知るいい機会となっていたようで、お互いいい学習の機会になっていたようである。

来年は、高井先生が本学を離れるため、リモートを取り入れつつ、実施可指数を 2-3 回にして継続して実施していきたい。



## 1-3 相談サービス事業

### 1-3-1 各種研修会等への講師派遣事業

看護・福祉・介護専門職の質の向上、県民の健康・福祉の向上、行政課題の解決に資することを目的に、看護研究の支援や、研修等へ本学専任教員が出向いた。

分野別派遣回数

番号	1	2	3	4	5	6	計
種類	病院等	職能団体 (看護協会等)	行政	学校・教育機関	福祉・高齢者関係 の任意団体	その他	
回数	6	2	5	5	6	0	24

No.	派遣講師 (職名 氏名)	派遣日時	派遣場所	内容	主催者	種類 番号	回数
1	准教授 中道 淳子	R3.4.14、10.13 12.16	河北中央病院	看護研究指導・講評	河北中央病院	1	3
2	講師 大江 真吾	R3.4月～R4.3月 月1回 13:30～15:00	かほく市こども 発達相談支援 センター	学習会での発達障害 児の生活全般に関する 講話、助言	かほく市健康福 祉課	3	12
3	助教 千原 裕香 助教 後藤 亜希	R3.5.27、6.3 6.10、6.17、6.24 7.8、7.29、8.5 8.19、8.27、9.2 9.16、11.11、12.2 2.10、2.17、3.3 3.10 14:30～16:00	金沢市戸坂小 学校、金沢大 学子どものこ ころの発達研 究センター、金 沢市教育プラ ザ	友だち作りの力を養う 学校版 PEERS プロ グラム事業講師	金沢大学子ども の発達研究セ ンター長	4	18
4	特任講師 北川 洋子	R3.5.19 15:30～17:00	オンライン研修 (Zoom)	石川県医療在宅ケ ア事業団研修会	石川県医療在 宅ケア事業団	2	1
5	教授 川島 和代	R3.6.5 16:25～17:15	福祉総合研修 センター	介護職員等による喀 痰吸引等関係研修	石川県社会福 祉協議会	5	1
6	准教授 金子 紀子	R3.8.5、10.27、12.20 14:00～16:00 R4.2.26 研究発表会 10:00～	珠洲市総合病 院 (Web 開催)	看護研究指導	珠洲市総合病 院	1	4
7	助教 千原 裕香 助教 河合 美佳	R3.6.15 14:05～15:55	鹿西高校	探究的学習	石川県立鹿西 高校	4	1
8	助教 千原 裕香	R3.7.6、R4.1.26 R4.3.4	公立宇出津総 合病院	看護研究指導・講評	公立宇出津総 合病院	1	3
9	教授 紺家 千津子	R3.7.31 9:00～11:00	オンライン研修 (Zoom)	専門的看護実践力 研修「がん看護」「危 機理論」について	金沢大学附属 病院長	1	1
10	教授 牧野 智恵	R3.8.8 9:00～11:00	オンライン研修 (Zoom)	専門的看護実践力 研修「がん看護」「が ん患者のこころのケ ア」について	金沢大学附属 病院長	1	1
11	教授 垣花 渉	R3.7.22 9:00～10:30	いしかわ総合ス ポーツセンター	石川県地域スポーツ 人材養成講習会「中 高年者の体力とスポ ーツ指導」	石川県民文化 スポーツ部スポ ーツ振興課長	3	1
12	教授 林 一美	R3.8.21 10:40～12:40	石川県社会福 祉会館	介護職員等による喀 痰吸引等関係研修	石川県社会福 祉協議会	5	1
13	教授 川島 和代	R3.9.1 10:00～12:00	石川県産業文 化センター	介護職員等による喀 痰吸引等関係研修の 企画委員会	石川県社会福 祉協議会	5	1

14	准教授 石川 倫子	R3.10.25 9:30～16:30	オンライン研修 (Zoom)	教育担当者研修	石川県看護協会	2	1
15	教授 垣花 渉	R3.9.14 14:30～15:30	石川県立羽咋 高校	フィールドワーク説明 会	石川県立羽咋 高校	4	1
16	教授 川島 和代	R3.9.29 10:00～11:00	かほく市役所	介護予防サポーター フォローアップ講座	かほく市長寿介 護課	3	1
17	教授 牧野 智恵	R3.11.27 8:30～17:30	オンライン研修 (Zoom)	本人の意向を尊重し た意思決定のための 相談員研修会	神戸大学医学 部付属病院	1	1
18	講師 金谷 雅代	R3.11月～12月	石川県立錦城 特別支援学校 ほか3校	県立学校における医 療的ケア指導アドバ イザー巡回事業	特別支援学校	4	4
19	教授 中田 弘子	R3.12.23、R4.3. 15 17:00～19:00	公立羽咋病院	事例検討会	公立羽咋病院	1	2
20	准教授 木森 佳子 講師 松本 智里	R4.2.2 14:00～17:00	公立能登総合 病院	看護研究発表会	公立能登総合 病院	1	1
21	准教授 中道 淳子	R3.8.10 13:30～15:30	オンライン研修 (Zoom)	津幡町介護予防メイ ト養成講座	津幡町福祉課	3	1
22	教授 川島 和代	R4.3.4 10:00～12:00	オンライン研修 (Zoom)	介護職員等による喀 痰吸引等関係研修	石川県社会福 祉協議会	5	1
23	教授 小林 宏光 准教授 桜井 志保美 講師 寺井 梨恵子	R4.3.5 8:30～12:00	石川県立 中央病院	看護研究の講評	石川県立 中央病院	1	1

### 1-3-2 病院への事例・看護活動・研究等の指導助言実施状況 (再掲)

地区/県	派遣病院名	指導内容	講師名	回数
金沢	河北中央病院	看護研究指導・講評	准教授 中道 淳子	3
	金沢大学附属病院 オンライン研修(Zoom)	専門的看護実践力研修「がん看護」「危 機理論」について	教授 紺家 千津子	1
	金沢大学附属病院 オンライン研修(Zoom)	専門的看護実践力研修「がん看護」「が ん患者のこころのケア」について	教授 牧野 智恵	1
	石川県立中央病院	看護研究講評	教授 小林 宏光 准教授 桜井 志保美 講師 寺井 梨恵子	1
能登	珠洲市総合病院	看護研究指導	准教授 金子 紀子	4
	公立羽咋病院	事例検討会	教授 中田 弘子	2
	公立能登総合病院	看護研究発表会	准教授 木森 佳子 講師 松本 智里	1
	公立宇出津総合病院	看護研究指導・講評	助教 千原 裕香	3
兵庫県	神戸大学医学部付属病院 オンライン研修(Zoom)	本人の意向を尊重した意思決定のため の相談員研修会	教授 牧野 智恵	1

## **2 地域連携・貢献事業**



## 2-1 地域連携・貢献事業

### 2-1-1 子育て「どろっぷ・イン・さろん」

企画担当：金谷雅代 / 小児看護学講座 准教授

#### 1. 事業の目的

継続的な支援の実現には、「何かあったらこの人に相談しよう」というような信頼関係を築くことが重要であり、そのためにはまずは親子と支援者が、または親同士が短期に集中して会い、お互いを知り合い分かり合う必要がある。「子育てどろっぷ・イン・さろん」は、育児困難に悩む親同士および支援者と親との信頼関係を育てながら親を継続的に支援していこうとするシステム(妊婦プログラム→乳児の母への Nobody's Perfect(NP)プログラム→幼児 NP プログラム→フォローアッププログラム→本さろん)の最終段階の支援策である。子育てに悩みをもつ母を対象に、①エンパワーメント(自己効力感を高める等)②サポートし合う仲間づくり③自分に取り入れられそうな子育て等のやり方や考えを得る④自分の客観視⑤子育てへの不安や困難感の軽減⑥レスパイト・ケアの6点をねらいとし、子どもと離れて過ごす場所の提供と、悩みについて安心して話せるグループミーティングを行った。

#### 2. 実施状況

今年も新型コロナウイルス感染症予防のため、1回目はZoom、2回目はZoomと対面のハイブリットで行った。3回目からは対面で実施した。

**1)どろっぷ・イン・るーむ(午前):**託児を行い、母親には一人でまたは、他の参加者と自由に過ごす時間・場所を提供した。スタッフも母親の相談に対応した。新型コロナウイルス感染症予防のため8月24日(火)は中止した。

**2)親育ち・子育てを考える会(午後):**Nobody's Perfect 親支援プログラム(以下 NP)に参加経験のある母親を対象に、託児を行い、NP方式を取り入れたグループミーティングを全5回行った。

【スタッフ】金谷雅代、米田昌代、千原裕香、後藤亜希、坂本洋子、西村真実子

回数	開催日	るーむ参加者	考える会参加者	託児児童数	実施形態
1回	R3.8.24(火)		9名		Zoom
2回	R3.9.17(金)	1名	Zoom:5名 対面:5名	2名	Zoom+ 対面
3回	R3.10.4(月)	5名	8名	7名	対面
4回	R3.11.8(月)	7名	9名	4名	対面
5回	R3.12.2(木)	4名	8名	4名	対面

#### 3. 実施内容

##### 「NP 親育ち・子育てを考える会」で話し合われた主なテーマ

- 1回目:「イライラ、コロナでどこにも行けない閉塞感」
- 2回目:「子育てエッセンス」「きょうだいのこと」「人生設計(義理両親・家計)」
- 3回目:「夫との関係」「自己評価が落ちた時の対処法」「上の子、下の子の対応」「ストレス解消法」
- 4回目:「自分の親・病気・お金の話」「子育て中の仕事」
- 5回目:「学校への行かせ方」「言いたいことを言えるようになるには」「やらない家事」

#### 4. 評価と今後の課題

参加者の方からは、「コロナで遊びに行く先が無く、家で子どもがワーワー言っているのがストレスたまる」ことや「ワクチンに行くのが怖い。とっても不安」などコロナにちなんだ話題も多いように感じた。最終回では「この会が無かったら、本当に子どもを育てられなかった」「毎回、この場に来れたことを幸せに思う」「素敵な会だと思うので、続けて欲しい」との感想を得た。どんな時でも、子育て中の母に対して、気のはらない人と、安心して話ができる「場」を提供していきたい。



## 2-1-2 あかちゃんをお空へみ送られた方の自助グループに対するサポート活動

企画担当：米田 昌代 / 母性看護学 教授

### 1. 事業の目的

あかちゃんを亡くされ方がアクセスしやすいような体制作りと会の広報、お話会開催によって、あかちゃんを亡くされた方の自助グループ活動を支援する。また、個別相談体制、医療施設・行政との連携を強化していく。

- 1) お話会の運営をサポートする。
- 2) 体験者、臨床、地域からの相談があった場合、個別相談もしくは、5つの自助グループのネットワークを通じて対応できる。

### 2. 実施状況 3. 実施内容

#### ①お話会開催 日時・場所

**対象：**あかちゃん（流産・死産・新生児死亡・乳児死亡等）であかちゃんを亡くした方  
ひまわりの会は年齢を問わずお子さんを亡くした方、グリーフケアカフェはあらゆる喪失に対応

回数	月日	時間	主催	場所	参加人数
第1回	R3. 4. 24 (土)	10:00~12:00	グリーフケアカフェ	シェアマインド金沢	5
第2回	R3. 6. 7 (月)	9:30~11:30	小さな天使のママの会	Zoomでの開催	8
第3回	R3. 6. 27 (日)	10:00~12:00	グリーフケアカフェ	シェアマインド金沢	3
第4回	R3. 8. 29 (日)	10:00~12:00	グリーフケアカフェ	シェアマインド金沢	4
第5回	R3. 10. 4 (月)	9:30~11:30	小さな天使のママの会	石川県立看護大学	6
第6回	R3. 10. 23 (土)	10:00~12:00	グリーフケアカフェ	シェアマインド金沢	4
第7回	R3. 10. 24 (日)	10:30~16:00	ひまわりの会	石川県社会福祉会館	6
第8回	R3. 12. 19 (土)	10:00~12:00	グリーフケアカフェ	シェアマインド金沢	5
第9回	R4. 2. 7 (月)	10:00~12:00	小さな天使のママの会	Zoomでの開催	7
第10回	R4. 3. 13 (土)	10:00~12:00	グリーフケアカフェ	シェアマインド金沢	5

\*R3. 4. 25 (日)、7. 25 (日)、1. 23 (日) ひまわりの会はコロナ禍のため中止

#### ②適宜メール相談・電話相談・面談

- ・前年度からの継続 メール・電話相談 1件、4月 12月 1月
- ・新規電話相談・面談 1件 11月 12月
- ・支援したい人からの活動の相談 面談1件

#### ③ひまわりの会 自死予防活動

R3. 8. 7(土) 14:00~17:00 ころの健康づくり講演会 運営・参加

「子どもは生きものとしい当たり前のこと」 講師 中村 桂子 氏

(元 JT 生命誌研究館名誉館長)

石川県・かけがえのない命をまもるネットワークいしかわ(ひまわりの会所属) 主催

#### ④体験者の話を聞く場

R3. 7. 7 (水) 13:00~14:30 母性看護方法論の講義枠で自助グループ代表者・メンバーの方に語っていただく。

第25回ペリネイタル・グリーフケア検討会で体験者8名の方に体験談を語っていただき、医

療者の方々と交流した。

## ⑤ 広報活動

流産で赤ちゃんを亡くされた方の支援強化に関する国の通達が出たことにより、行政から活動に関する問い合わせがあったため、改めて、ちらしを各自治体・市町村に配布した。

## ⑥ 全国のあかちゃんを亡くした方の自助グループ、支援者との情報交換

ペリネイタル・グリーフケア検討会に参加していただいたメンバーを中心に、その後、11月28日と2月6日に天使ママの自助グループの集いを実施し、自助グループを運営する上での悩み等を共有し、情報交換しあった。次年度も他の自助グループにも案内し、継続して実施していく予定である。

不妊・不育ピアサポーター養成研修で、受講者兼ファシリテーターを務め、全国の支援者、ピアサポーターと交流した。

## 4. 評価と今後の課題

今年度はコロナ禍2年目の年であり、お話会の開催はひまわりの会は1回しか対面で実施できず、残りの3回は中止した。ひまわりの会は高齢者のグループであり、Zoom使用は難しい。小さな天使のママの会も対面は1回しか実施できなかったが、残りの2回はZoomで実施し、Zoomでのお話会にも慣れてきた様子である。話し合いにより、Zoomでの参加ルールも作成した。グリーフケアカフェは感染対策を講じながら、延期もしつつ、シェアマインド金沢にてすべての回を実施できた。対面で実施すると、終了後もそのまま参加者同士で話しており、メンバー同士のつながりが生まれやすい。今後は感染状況を見つつ、対面が可能であればできるだけ対面で実施していきたいと考えている。

各自助グループ同士の交流も、支援する立場としての悩みを共有できる場であり、自助グループ存続のためにも必要であると考えられるため、今後も継続していく。

**お子さんをお空へみ送られたみなさんに**

一人きりで悲しみにくれていますか？  
み送られたお子さんのことやお気持ちを感じて一緒に語り合おう！  
一緒に語り合い、気持ちをわかちあいましょ〜  
その中で少しでも光を見いだせるお手伝いができたらと思っています。  
体験者とともに医療者がサポートしています。

個別の対応 メール・電話  
お話し会の定期的開催 別途ご案内  
以下にご連絡ください。

あかちゃんからおとなになってからみ送られた方まで幅広く対応いたします。

**ひまわりの会** 事務局 ☎090-2833-3427 (石川)  
ホームページ <http://www.ishikawahimawari.sakura.ne.jp/>

あかちゃんをみ送られた方(流産・死産・新生児死亡・乳児死亡)に対応いたします。

**小さな天使のママの会** 津幡事務局 ☎090-4691-9378 (石川)  
ホームページ <https://tenshimama.jimdo.com/>

**SIDS家族の会** 北陸支部 Mail: sids\_hokuriku@palette.plala.or.jp (富山)  
本部 ☎050-3735-5341 (任意ダイヤル)(東京)  
ホームページ <http://www.sids.gr.jp/> [問い合わせフォーム有]

**ハートシェアの会** Mail: khmmama@yahoo.ne.jp (福井)

**天使のゆりかご** 石川県立看護大学 母性・小児看護学講座内 窓口: 米田 昌代  
Mail: massayo@ishikawa-nu.ac.jp  
ホームページ <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/nab/boshou/ikikomimasannhe/>

☑ 天使のゆりかごは、上記4つの自助グループのサポートと相談者の連携をしています。相談窓口に通ったら、まずメールでご連絡ください。支援者の相談にも応じます。

**グリーフとは？**  
大切な人や存在をなくした時に起きる悲しみとそれに伴う心や身体の反応のことをいいます。

石川グリーフケアの会とは  
グリーフの知識を学んだメンバーが、グリーフの方のケアとグリーフというものを知らせてもらうために、支援活動や学習会・グリーフケア cafe・カウンセリングの活動をしています。

私たちの credo  
① 私たちは守秘義務を厳守し、グリーフにある方の状態に合わせて寄り添い、安心・安全の場をつくります。  
② 私たちは、自分の経験や痛み、自己判断せず、グリーフにある方の成長を促してお話を聴きます。  
③ 私たちは、自分たちの気持ちいつもチェックし、感情を込めて寄り添います。  
④ 私たちは、悲しみは人によって良いものとなると思っていて、その方の幸せを願って関わります。

お問合せ 番 本務 ☎090-2838-3580  
電話 アドレス [ishikawa.griefcare@gmail.com](mailto:ishikawa.griefcare@gmail.com)

メンバー 米田 昌代 (石川県立看護大学教授)  
水口 真理

大切な人や存在をなくしたかたに  
張炎 伸哉 からくる哀しみを  
グリーフケアの場で見守りますか？

## 2-1-3 いきいき世代とつくる健康教室「地域公開講座」

企画担当：塚田 久恵 / 地域看護学 教授

### 1. 事業の目的

本事業は本来 2 つの目的で実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、本年度は下記①のみ実施した。

- ① かほく市いきいきステーション等にて地域公開講座を開催し、看護大学教員の知見を市民に還元する。
- ② いきいきステーションに定期的に訪問し、学生・教員と地域のシニア世代との交流活動を行い、学生においては対象理解や地域のニーズ把握を促進し、シニア世代には社会参加の機会となる。

### 2. 実施状況

いきいきステーションの協力のもと、地域公開講座を 4 回実施した。

企画書をいきいきステーションに提出、開催概要を提示し、いきいきステーションからかほく市の広報誌に掲載、各回の参加者募集を依頼した。

### 3. 実施内容

#### ① 地域公開講座（全 4 回）

- |                                  |              |
|----------------------------------|--------------|
| <第 1 回> 9 月 6 日（月） 13:30～15:00   | 担当者：平居貴生教授   |
| テーマ：食習慣と生活習慣病                    |              |
|                                  | 参加者：9 名      |
| <第 2 回> 10 月 29 日（金） 13:30～15:00 | 担当者：木森佳子准教授  |
| テーマ：たこ、うおのめ、傷の治し方                |              |
|                                  | 参加者：13 名     |
| <第 3 回> 11 月 26 日（金） 13:30～15:00 | 担当者：桜井志保美准教授 |
| テーマ：あなたの眠りは大丈夫？－睡眠の基礎知識－         |              |
|                                  | 参加者：17 名     |
| <第 4 回> 12 月 13 日（月） 13:30～15:00 | 担当者：牧野智恵教授   |
| テーマ：苦しみの中에서도見出せる人生の価値            |              |
|                                  | 参加者：16 名     |

各回参加者は 9～17 名であった。感染対策のため、会場も収容人数 30 名程度の会場に 10 名程度を限度としたが、受講希望者が多い場合は、会場をオンラインでつないだり、広い会場に変更する等、より多くの方が受講できるよう配慮した。また、体温測定、換気、消毒を十分に行い開催した。参加者からの質問なども多く、テーマについて考えてもらうよい機会となった。繰り返しの参加者もあり、広く知識を学んでもらえるなど、成果はあったと考える。次年度のテーマの希望もあがり、市民の健康生活への貢献は今後も必要と考える。

### 4. 評価と今後の課題

本年度は、開催時期を早めて 9 月から開催し、全 4 回実施した。感染状況が少し落ち着いていた時期でもあり、かほく市の広報誌、いきいきステーションからの案内や声かけにより、昨年度より多く参加されていた。参加者からは、ためになったという声も聞かれ、健康への働きかけにつながっていると考える。次年度も地域住民のニーズを参考にしながら、本学担当者の提供可能なテーマで講話を企画したい。



## 2-1-4 終末期看護実践の悩みを共に語り心も体もリフレッシュ

企画担当：牧野 智恵 / 石川県立看護大学 教授

### 1. 事業の目的

オルゴール療法には「治療効果」として、「想像力の開発」「心理的効果」があるといわれている。看護師は、受け持ち患者の死と向き合う体験をしても、ゆっくり自分の心を癒せる場がない。そういった体験者同士が、オルゴール療法や自らの体験を語る場の中で、悲嘆を乗り越え、今後の看護実践を意味あるものできると期待される。

### 2. 実施状況

開催日時・場所：

1回目：令和3年8月7日(土)10:00～12:00 オンラインシステム (Zoom)

2回目：令和3年9月18日(土)10:30～14:30 ハーブの里・響きの森 (ミントレイノ)

参加者：1回目(9名)、2回目(6名)で終末期実践に悩みについて自由に話し合いをした。

(ほか、学部生2名が参加)

### 3. 実施内容

第1回は、これまでの終末期看護実践を通しての思いや悩みについて自由に語り合った。

第2回は、白山市のミントレイノにて、2班に分かれ、①アロマスプレーづくり、②オルゴール療法といったリフレッシュ体験を行った。その後、第1回の対話を踏まえた終末期実践における気持ちの変化や各施設でのグリーンケアの課題や今後のケアについて語り合った。

いずれも新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3密を避け十分な感染対策の上で実施した。

#### 【プログラム 2回目 (ミントレイノ)】

10:30～11:30 ① アロマスプレーづくり、庭園の散策

11:30～12:30 ② オルゴールセラピーの体験

※3密防止のため①②を交代で実施

12:30～13:30 休憩

13:30～14:30 対話

14:30～ アンケート、解散

### 4. 評価と今後の課題

1回目では参加者が抱える終末期ケアに対するジレンマ(自分が行った治療が患者の死の引き金となった、業務に追われて感情鈍麻していることに気づく等)や、つらい気持ちを共有する場がなく多職種連携を行ううえでの辛さが蓄積していることが中心に語られていた。中堅以上になると個人の看護実践能力が高まるがゆえに組織の在り方に疑問を抱き、個人の努力ではどうしようもできない問題(患者の急変、緊急入院など)に直面し、苦悩していることが窺えた。

2回目では他の参加者も同様の悩みを抱えながら日々の看護に取り組んでいることを共有し、悩みを抱えたままでもいいのだという感覚や、これからも自身の経験を積み重ね看護実践に活かしたいという発言が生じていった。またアンケートの結果からも、1回目終了時の参加者は「曇った気持ち」であったが、2回目終了時には「晴れ晴れした気持ち」に変化していたことがわかった。本企画を通してオルゴールの響きとアロマの香りに癒されながら対話を行うことで、日々の終末期看護実践の悩みを心も体も癒される機会となった。

今回、地域や所属施設が異なる看護師同士が参加したからこそ、組織に対する思いも自由に表出できたように思われた。今後は参加者の語りの内容やアンケート結果の分析を通して、終末期実践を抱える看護師が望むグリーンケアの在り方や、効果的なリフレッシュ企画についても検討

し、施設の垣根を超えた看護師の癒しの場を提供していきたい。

### アロマスプレー作り体験



オルゴール療法を体験しストレス解消！



対話タイムで終末期看護の悩みを共有しました

## 2-1-5 能登の祭り応援事業

企画担当：市丸 徹 / 健康科学講座 准教授

### 1. 事業の目的

能登町では、過疎が進む中でも公民館が中心となって、地域交流を積極的に促進している地区がある。その取り組みに学生とともに参加して活性化のお手伝いをするとともに、生きがいとは何かを地域の方々から学ぶことを目的としている。

### 2. 実施状況

新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、令和3年度も令和2年度に引き続き、能登町での多くの祭りが開催自粛され、9月の白丸曳山祭りも同様であった。11月に予定していた、地域の方の看護大への訪問も実施が困難であった。3月の白丸公民館まつりでは、地域住民が集まったの催しは見送られたが、日頃の活動における制作物の展示会が企画され、看護大からもポスター出展で参加した。

### 3. 実施内容

3月初旬、白丸公民館まつりの代わりに開催された展示会に、看護大からは令和2～3年度にフィールド実習でお世話になった学生（1～2年生12名、教員3名）が寄せ書きを作成し、フィールド実習発表会でのスライドをもとに作成したポスターとともに出展した。

### 4. 評価と今後の課題

コロナ禍により地域の方々と大学・学生とで交流を深める機会を持っていない状況が続いているため、計画していた行事の実施は適わず、評価の俎上にも載せ難い。しかし年度末の公民館まつりが中止ではなく展示会と形式を代えて開催されたことで、何とか交流を途切れさせずに継続できている。コロナ禍は今後も続くことも予想されるため、対面できない、集合できない状況の中で何ができるのか、学生とともに模索していくことが今後の課題と考える。

また、感染状況が落ち着き、能登地区での活動や交流が可能となったときには、訪問をともなう行事を再開し、本来の事業目的達成のために活動したい。



## 2-1-6 わたしと地域の未来を変革する SDGs

企画担当：寺井 梨恵子 / 基礎看護学 講師

### 1. 事業の目的

令和2年度より本事業を開始した。事業の目的は、①学生と地域住民の交流を行いながら SDGs に取り組むこと、②ESD（持続可能な開発のための教育）を通して持続可能な社会づくりの担い手を育む教育を行うことである。

### 2. 実施状況

回	月日	時間	内容	参加者数
<b>1) 「SDGs de 地方創生カードゲーム」体験会</b>				
第1回	R3.4.28 (水)	14:40~17:30	場所：本学 研修室 公認ファシリテーター：寺井梨恵子	6名
第2回	R3.4.29 (木)	13:00~16:00	場所：本学 研修室 公認ファシリテーター：寺井梨恵子 サポーター：松本智里	9名
第3回	R3.8.17 (火)	9:30~12:00	場所：本学 研修室 公認ファシリテーター：寺井梨恵子 サポーター：瀬戸清華、学生ボランティア	8名
<b>2) 「風水害24」体験会</b>				
第1回	R3.7.22 (木)	13:00-15:30	場所：本学 成人老年実習室 公認ファシリテーター：寺井梨恵子 サポーター：松本智里、三輪早苗、瀬戸清華、学生ボランティア	11名
<b>3) 出張講座</b>				
第1回	R4.1.25 (火)	14:40~16:10	内容：「地域とSDGs」 形式：オンライン (Zoom) 講師：寺井梨恵子	23名
第2回	R4.1.25 (火)	16:10~17:50	内容：「風水害24 MOVIE」 形式：オンライン (Zoom) 講師：寺井梨恵子	23名

### 3. 実施内容

#### 1) 「SDGs de 地方創生カードゲーム」体験会

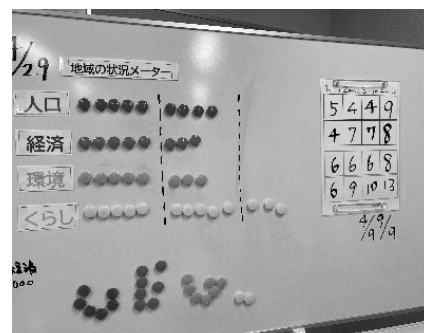
SDGs de 地方創生カードゲームは、「中山間地域にある人口数万人の小さなまちが、今後12年間でどうなっていくのか」をシミュレーションするゲームである。参加者は、「住民」または「行政職員」に分かれて、①それぞれの志を達成すること、②持続可能なまちを実現することを目的として、それぞれが考えて行動した。刻一刻と変化するまちの状況（人口、経済、環境、暮らし）を見ながら、また熱狂しながら、体験を通して多くの学びを得た。

- ① プログラム全体への満足度（平均 4.8/5.0）
- ② 開催日程、時間、場所に対する満足度（平均 4.9/5.0）
- ③ 自由記載では、「SDGs は世界規模のもので、自分に関係ないと思ってしまっていたが、ゲームを通して、誰も取り残さない・対話・連鎖など自分が少し気をつければ日常の中でできる





ことがあると学ぶことができた」や、「看護学生として傾聴というコミュニケーションを学んでいるので、普段から問題解決のために誰かと話しているときは傾聴を行うことが重要であり、生かせることだと思った。また、患者さんがどんな生活背景を持っているのかもこの体験会に参加することで考えやすくなったように感じる」など、プログラムの目的を達成した感想であった。



## 2) 「風水害 24」体験会

風水害 24 ゲーム体験会は、「大規模風水害接近から通過までの 24 時間」をリアルにシミュレーションするゲームである。参加者は、「まちに住む住民」を演じながら、行動を選択します。台風が接近し、警戒レベルが変化中、自助と共助のバランスを考えながら、体験を通して多くの学びを得た。



- ① プログラム全体への満足度 (平均 5.0/5.0)
- ② 開催日程、時間、場所に対する満足度 (平均 4.7/5.0)
- ③ 自由記載では、「災害が発生する前に、自分の住む地域のハザードマップを確認しておくこと、防災グッズや感染予防グッズを揃えておくことが大切だと感じた」や「取り残された住民の多くは、情報を入手することが困難であったり、避難行動を取ることが難しい人が多かったため、そう言う人が地域にいることを前提として情報を共有したり声をかけていくことが必要だと感じた」などの感想であった。

## 3) 出張講座

第 1 部では「SDGs×地方創生×看護」とし、講義と個人ワークを行った。

<感想抜粋>

- SDGs は、聞いたことがあるけど具体的にどんなことを指しているのか分かりませんでした。今日の授業を聞いて、自分にできることを探して行きたいと思いました。また、コロナ禍の昨年は日本の SDGs の達成度が低下していることも分かりました。
- 日本の人口減少は、良くない傾向だということはなんとなくわかってはいたけれど、インフラにも影響が出ることや、未来の日本や地方を想像してみることも大切だとわかりました。

第 2 部では「災害から自分と家族の健康を守る③風水害 24」とし、風水害 24 MOVIE を活用したグループワークを行った。

<感想抜粋>

- 今の自分が災害時にどんな対応をとり、その結果どうなるのかを知る事が出来て、役に立ちました。北陸は災害が少ないが、油断大敵なのでもう一度自分の行動が正しいのかを考え、最善の対応を考えていこうと思います。
- 風水害 24 みたいなウェブサイトがあるのは知らなかったし、すごく楽しかったです。

## 4. 評価と今後の課題

コロナ禍であり、地域住民の参加は叶わなかった。本学の学生にとっては、コロナ禍における HHC 対応事業として学内で参加できる機会にもなった。

今後は、定期的な活動を継続し、地域住民の方と一緒に地方創生を含めて、SDGs を共通言語とした取り組みを企画・運営する。コンテンツとしては、看護学生だけではなく小中高校生も参加できるため、引き続き県内教育機関への広報活動を行う。

## 2-1-7 パーキンソン病いきいきリハビリ教室

企画担当：岩佐 和夫 / 健康科学講座 教授

### 1. 事業の目的

パーキンソン病は 10 万人当たり約 150 名の有病率であり、かほく市内においても 50 名程度のパーキンソン病患者が在住すると推定される。パーキンソン病ではリハビリテーションが病状の進行予防に有用であるが、本事業の実施によりリハビリテーションを楽しく体験してもらい、リハビリテーションへの参加意識を向上させることができると考える。また、パーキンソン病患者に対し、お互いに情報を共有する場や疾患に関する情報発信の場を提供することができると思う。

本事業では、リハビリテーションを楽しく体験してもらうこと、地域のパーキンソン病患者の集いと情報提供の場を提供することを目的とし、かほく市におけるパーキンソン病のリハビリ教室を企画した。

### 2. 実施状況

開催日：2021 年 10 月 10 日（日）14：00～16：00

開催場所：宇ノ気体育館内スタジオ

講演：金沢医療センター 脳神経内科部長 坂尻頭一先生

「PD ジム in KMC がかほく市に来たぞいね」

リハビリ教室：5 名のリハビリスタッフによるリハビリ指導

（オリジナル曲も含めた歌に合わせてリハビリ体操を実施した。）

交流会：多くの質問があり、患者同士や医療関係者との意見交換ができた。

参加者：15 名

スタッフ：脳神経内科専門医 3 名

リハビリスタッフ 5 名

看護大学スタッフ 4 名

後援：かほく市健康福祉部健康福祉課

### 3. 実施内容

金沢医療センターにてパーキンソン病のリハビリ教室「PD ジム in KMC」を開催している坂尻頭一先生（脳神経内科部長）と実施内容を検討し、坂尻先生による講演とリハビリスタッフによるリハビリ教室を開催した。最初の部では、「PD ジム in KMC がかほく市に来たぞいね」と題して、金沢医療センターで実施しているリハビリ教室の内容の紹介とかほく市での開催に至る経緯について坂尻先生の生い立ちも含めた講演をおこなった。次に、リハビリスタッフが作成したリハビリ体操のビデオをみて、参加者全員で身体を動かすリハビリを行った。パーキンソン病の患者さんの状態に合わせ、無理のないように配慮しながら運動をおこなった。また、今回のリハビリ教室に合わせオリジナルの曲を作成し、この曲に合わせたリハビリ体操も行った。全体では 30 分程度の体操ではあったが、うっすらと汗をかく心地よい運動であった。

第 3 部では、パーキンソン病患者同士や医療スタッフ、リハビリスタッフが意見を交換し、日頃から感じていたことや療養で困っていることについての質問に対し、専門医が答えたり、リハビリスタッフがアドバイスをしたりし、楽しい時間を過ごすことができた。

本教室に参加された方には参加証を配り、リハビリ体操のビデオは希望者には無料で配布した。





金沢医療センター 脳神経内科  
部長 坂尻顕一先生による講演



オリジナル曲に合わせてリハビリ体操

#### 4. 評価と今後の課題

参加者に行ったアンケートでは、ほぼ全員が今回のリハビリ教室に満足をしており、このような教室の開催の継続を希望する声がほとんどであった。また、かほく市のみでなく、かほく市近郊の地域からも参加できるように広報活動を広げて欲しいとの希望や開催場所も多くの場所で開催して欲しいとの声もあり、今後検討していくことになった。

講演会では、パーキンソン病に関する最新情報や療養、介護に関する情報について、専門医や現場のスタッフ招いて順次開催していくことが必要であると考えられた。

リハビリ体操については、動きが速くついていくことが大変であったとの意見もあり、病状に合わせた運動を工夫し、指導していけるように工夫することが求められた。今後、リハビリのスタッフとの意見を交換し、本教室のみでなく家庭に帰っても継続できる運動を指導していけるように工夫していくことが課題である。

## 2-1-8 市民防災講座

企画担当：金谷雅代 / 小児看護学 准教授

### 1. 事業の目的

令和2年度まで「災害につよいまちづくりフォーラム」を開催し、地域の防災士や住民と頻発する自然災害への備えについて考えてきた。地域で防災に関わる人も増え、防災活動の広がりが見られる。このような情勢をふまえ、さらに地域の防災力維持・向上を目指すことを目的に、地域防災士や行政担当者とともに防災講座を展開した。

### 2. 実施状況

令和2年10月に準備会を開催し、地域防災士や行政担当者との意見交換し、3回の講座内容について検討した。防災士資格を取得して3年目までの新任防災士を対象に、今後の防災士としての活動に活かせるようにした。12月には、先輩防災士として経験を語ってもらう方々との打ち合わせ会を実施した。

かほく市の後援を得、また、かほく市防災環境対策課から該当する市内の新任防災士に広報を依頼し、参加者を募集した。

当初12月、1月、2月の企画としていたが、コロナ禍のため2、3回目は日程を変更し、先輩防災士の講話も録画分を事前に視聴してもらうことにした。

### 3. 実施内容

#### 第1回

日時：令和3年12月14日（火）19:30～21:00

場所：かほく市産業文化センター 中ホール

コーディネーター：武山雅志特任教授 先輩防災士：6名

テーマ：防災への思いをつなぐ

参加者：資格取得から1～3年目の防災士9名 オブザーバー 6名

内容：先輩防災士との質疑応答を通して、新任防災士が抱える課題について全体で検討した。市内各地区の防災士が参加し、地区の実情についても共有できた。

#### 第2回

日時：令和4年3月5日（土）10:00～12:00

場所：かほく市瀬戸地区と長柄町地区、石川県立看護大学 研修室

コーディネーター：武山雅志特任教授 講師：松井喜憲氏

テーマ：災害への備え／地域のリスクを見つけよう

参加者：資格取得から1～3年目の防災士7名 オブザーバー 2名

内容：①先輩防災士である松井氏に防災士の役割や自地区の見かたについて、事前に録画した講話を参加者に視聴してもらった。

②3月5日に地図、ハザードマップを用いて地域を回り、危険箇所を見つけ、撮影してもらい、防災マップを作成した。

#### 第3回

日時：令和4年3月29日（火）19:30～21:00

場所：かほく市産業文化センター 大ホール

ファシリテーター：武山雅志特任教授、曾根志穂金城大学講師、金谷雅代

テーマ：防災訓練を企画してみよう

参加者：資格取得から1～3年目の防災士 6名 オブザーバー 3名

内容：①3月5日に作成した防災マップについて、グループで共有とプレゼンテーション  
②グループ別に地域の特性をふまえた防災訓練を企画し、発表した。

#### 4. 評価と今後の課題

防災士としての知識や経験を先輩防災士が講師を務めて話してもらうことで、新任防災士には多くの示唆を得られたことが感想から伺えた。他地域での防災訓練等の情報交換もでき、地域における防災活動がより活発になることが期待できる。

選択した2つの地区を実際に回って、危険箇所を確認してみることを通して、実情が詳細に分かり、地域特性に合わせた避難誘導や防災訓練の企画等、防災士としての活動に活かせると考えられる。

今回をきっかけに、参加した地域の防災士が積極的に活動を展開していることを期待したい。コロナ禍で防災訓練自体が実施しにくい状況でも自然災害は発生しているため、感染対策等の課題も一緒に考えていきたい。



## 2-1-9 コロナ禍における職場の感染対策と事業継続

企画担当：室野奈緒子 / 地域看護学 助教

### 1. 事業の目的

新型コロナウイルス感染症は未だ収束の見込みが立たず、長期化が予想される。経済にも大きな影響が出ている中、事業者は十分な感染対策を行いながら、事業活動の継続が求められている。

本事業では、産業保健の専門家による感染対策および事業継続に関する講演、また、石川県内の企業の好事例の紹介などとおして、企業の感染対策と事業継続を支援することを目的とする。

### 2. 実施状況

日時：2021年8月21日（土）13:30～16:00

会場：オンライン形式（Zoom）

講演① 「職場の感染対策と事業継続」

講師：四日市看護医療大学 学長 柴田英治 氏

講演② 「コロナ禍における職場の健康管理」

講師：石川産業保健総合支援センター 保健師 亀田真紀 氏

講演③ 「with コロナ時代に求められる業績アップオフィス創りの進め方」

講師：株式会社山岸製作所 代表取締役社長 山岸晋作 氏

意見交換・質疑応答

進行：金沢医科大学 看護学部 准教授 中田ゆかり 氏

スタッフ：全体司会：室野奈緒子（助教）、開会の挨拶：石垣和子（学長）、

塚田久恵（教授）、金子紀子（准教授）、黒川恵子（助教）

参加者：20名

開催形式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ、参加者がITリテラシーの程度に関わらず参加できるように、会場対面形式とオンライン形式の同時開催で計画した。しかし、開催時期の石川県内の感染状況を鑑み、開催形態をオンライン形式のみに変更した。

### 3. 実施内容

柴田英治教授からは、中小企業の感染対策と事業継続の事例等をお話頂いた。亀田真紀氏からは、産業保健師の立場から、このコロナ禍における職場の健康管理について講演頂き、改めて日頃からの健康管理の重要性を振り返る機会となった。山岸晋作氏からは、自社の職場環境改善の事例や、オフィス改善事例の紹介があり、感染対策と事業継続も配慮しながらも、従業員にとって働きやすく、企業の魅力を向上させる興味深いお話を頂いた。

### 4. 評価と今後の課題

終了後の参加者アンケート（回答者18名）では、参加者の職種は保健師が最も多く7名であった。また、所属する業種では、医療・福祉が6名で最も多かった。今後の業務に役立つ内容であったかの問いに対し、全員が役立つと回答した。また、今後どのような場面で役立ちそうかの問いに対し、「職場の感染対策」「コロナ禍の健康管理」という回答がどちらも10名と最も多かった。参加者に医療専門職や、医療・福祉の業種に所属する方が多かったことから、感染対策や健康管理に関心が集まったと考えられる。今後、事業主や衛生管理者の参加も増やすためには、企業の方たちの関心を引くキャッチーな研修題目の設定や、SNSを活用したPR活動など、戦略的な意識をもって企画や広報を行う必要があると考える。

## 2-1-10 ひとりで悩まないで！子どもをもつ乳がんサバイバー同士で語り合おう

企画担当：瀧澤 理穂 / 成人看護学 助教

### 1. 事業の目的

乳がんは子育て世代の罹患率が高く、症状や治療における身体的苦痛に加え、子育て、家事、仕事と関する様々な悩みを抱えている。乳がんサバイバー同士が療養や生活上の悩みを話し、情報交換することは不安の軽減や闘病への意欲につながるといわれているが、新型コロナウイルスの影響によりサバイバー同士の交流の機会が減り、自らの悩みを表出する場や情報を得る機会が失われている。そこで今回、乳がんサバイバーが自身の思いや悩みを語り合う場と乳がんに関する専門的知識提供（勉強会）の機会を提供することで、不安の軽減や闘病意欲の向上を目的に実施した。

### 2. 実施状況

本企画は実施責任者（瀧澤）の他、成人看護学領域の教員（牧野智恵）と石川県の乳がん患者会（ひまわり会）、福井県立病院のがん看護専門看護師・乳がん看護認定看護師（中野 妃佐恵）の協力を得て実施した。なお、本企画は、会場参加とオンライン参加のハイブリット形式を予定していたが、参加者の希望および新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて完全オンライン開催となった。

#### 【開催日時および参加状況】

第1回：令和3年6月26日（土）	13:00～15:00	参加人数：7名
第2回：令和3年8月28日（土）	13:00～15:00	参加人数：9名
第3回：令和3年11月27日（土）	13:00～15:00	参加人数：10名

### 3. 実施内容

第1回は自己紹介のあと、病気や生活について困っていること、話し合いたいことを語って頂いた。参加者からは、コロナ禍により同病者の交流の場が縮小されたことへの不安、検査や治療における意思決定への悩みや情報交換、長期にわたる副作用への悩みなどが自由に語られた。

第2回は福井県立病院の中野妃佐恵さんから「遺伝性乳がん卵巣がんについて」というテーマでミニレクチャーをして頂いた。遺伝子の仕組み、遺伝子検査の手順や費用、治療の方向性、体験者の事例などをわかりやすく講義いただき、参加者からは、「知りたい情報がわかりやすく身についた」「遺伝子検査は悩むことも多いが、自分の選択に自信をもとうと思った」などの感想があった。

第3回は、乳がんと診断されこれからの治療や生活に不安を抱えている方や、お子さんへの病気の伝え方や関わり方に悩んでいた方が新たに申し込まれた。それぞれの体験や思いを語り合うことで、仲間たちの存在が同じ病気を抱えながら生きていくための大きな力となっていた。

### 4. 評価と今後の課題

今回の参加者の中には、乳がんと診断され同病者との交流を求めているが、新型コロナウイルスの影響で最寄りのがんサロンが閉鎖されていた方、地元のがんサロンはあるが女性特有の悩みを語るができる乳がんの患者会がなかった方、化学療法中で免疫が低下しているため対面のがんサロンに参加する不安があった方などがいた。全面オンライン開催となったことで、石川、福井、富山在住の参加者同士、県の垣根を超えた語り合いや情報交換を行うことができ、同病者同士が支え合う場としての本企画を開催とした意義があったと考えられる。

しかし、今回は参加者へのアンケートを実施しなかったため、本企画によって具体的な効果を

判断するには至らなかった。そのため次年度はアンケートによる企画の評価も行う必要がある。また参加者からはリンパ浮腫やアピアランスケアなどに関するミニレクチャーを希望する声もあったため、ミニレクチャーの回数を増やし内容も充実させたい。

今後も北陸の乳がんサバイバーの方同士の交流の場や、医療者、行政をつなぐ橋渡しができるように取り組んでいきたい。

2021年度 石川県立看護大学 地域ケア総合センター 地域連携・貢献事業

## ひとりで悩まないで！ 子どもをもつ乳がんサバイバー 同士で語り合おう

乳がんサバイバーの・は、病気を抱えながら・育て、家事、育児、仕事と毎・頑張らなければならない。新型コロナウイルスの影響により 語り 合いの機会が制限される中、本企画に参加し、・由に語り合ってみませんか？ 皆様のご参加を・よりお待ちしております！！ **参加費無料**

第1回 2021年6・26・(・) 13時～15時  
第2回 2021年8・28・(・) 13時～15時  
第2回はミニレクチャーも開催します。  
講師：福井県立病院 中野妃佐恵さん(乳がん看護認定看護師/がん看護専門看護師)

第3回 2021年11・27・(・) 13時～15時

<対象者>  
乳がんサバイバーの・、そのご家族  
<会場での参加>  
・川県・看護・学  
〒929-1210 ・川県かほく市学園台1-1

オンライン参加もOK

ご・の病気を・さんに伝えることについて悩まれている・の  
個別相談も実施しています

ご希望の・はお気軽にご連絡ください。  
企画責任者 ・川県・看護・学 成・看護学講座 瀧澤 理穂  
電話 076-281-8362 メール takizawa@ishikawa-nu.ac.jp

お申し込みはQRコードまたはE-mailからお願いします。  
また表・もご覧ください。

会場参加の場合は、新型コロナウイルス感染対策のため三密を避け実施します

2021年度 石川県立看護大学 地域ケア総合センター 地域連携・貢献事業

## ひとりで悩まないで！ 子どもをもつ乳がんサバイバー 同士で語り合おう

☆QRコードまたはEmailよりお申し込み下さい。  
Email→takizawa@ishikawa-nu.ac.jp  
※石川県立看護大学HP⇒地域ケア総合センター⇒事業内容  
⇒令和3年度事業一覧からもお申し込み頂けます。

☆申し込みフォームから回答いただくか  
Emailに下記の必要事項を記入し、送信してください

【必要事項】

- ①氏名
- ②所属(がんサバイバー、ご家族)
- ③郵便番号 住所
- ④連絡先(メールアドレスまたは電話番号)  
※必ず連絡が取れる連絡先をご記入ください。中止、変更などの連絡をさせていただく場合がございます。
- ⑤参加日時(1回目、2回目、3回目)
- ⑥参加形態(会場、オンライン)

※会場参加の場合は健康状態の確認や、開催2週間前の北陸3県以外への外出自粛をお願いする場合があります。会場参加希望者には別途ご連絡致します。

【申し込み締め切り】  
1回目:6月23日(水) 2回目:8月26日(水) 3回目:11月24日(水)

・川県・看護・学  
■交通公共機関をご利用の・ ■お・でお越しの・  
・JR金沢駅からJR七尾線(約30分)・金沢駅本インターから車(約25分)  
(JR高松駅下車) (のと里山海道 県立看護大IC下車)  
・JR高松駅から路線バス(約5分)・能登方面から車  
(かほく市営バス 看護大学前) (のと里山海道 県立看護大IC下車)

主催 石川県立看護大学 地域ケア総合センター  
連絡先 076-281-8300 (代表)  
076-281-8362 (直通)  
企画責任者 石川県立看護大学 瀧澤 理穂

新型コロナウイルス感染対策のため、三密を避け実施します

### 検査を受ける？受けない？ すぐに決めなくてもOK

強制されない  
自分のため  
血縁者のために

検査を  
受ける

検査を  
受けない

いつでも受けれる  
費用の問題  
自分と家族の心の負担

#### 選択するのは自分

十分な情報をお伝えし、その選択をサポートしていきます。  
選択したことを尊重し、今後に必要な情報を提供すると共に  
フォローアップしていきます。





### **3 国際貢献事業**



## 3-1 JICA 日系研修

### 「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」コース

担当： 中道 淳子 / 老年看護学 准教授

この研修事業は独立行政法人国際協力機構（JICA）の委託を受け、石川県立看護大学と羽咋市社会福祉協議会が実施運営する。中南米日系社会支援の一環として平成 19 年度から開始され、令和元年度までで 13 期の研修生を受け入れてきた。14 期目より、コロナ禍にあり、研修員の来日が叶わず、遠隔研修を行っている。

#### 1. 研修目的

高齢者福祉制度や日本の伝統的な文化、ケアシステム、介護予防について学び、高齢者福祉対策の組織的な対応を行うための仕組みや機能の重要性について幹部層の（知識と）意識の向上を促進する。

#### 2. 研修実施体制

- (1) 研修コース名：「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」遠隔特別プログラム
- (2) 技術研修期間：2021 年 9 月 2 日から 2021 年 9 月 21 日まで
- (3) 研修員名：アスンシオン：前原尚美  
アマンバイ：宮田マリア、大石裕子  
ピラポ：山崎マリアロサ、四方志麻

#### 3. 研修内容（スケジュール参照）

日本の高齢社会で明らかになってきた介護予防に関する知識を習得できるよう、①～⑨についてオンライン学習後、Zoom にて質疑応答を行う。

日程		内容	受講方法
9月2日	木	20:00～21:00 開講式及びオリエンテーション	Zoom
9月3日	金	動画で学ぶ I	YouTube 上の 5 つ動画を 9/7 までに視聴し、動画を見てわからなかったことや、これらのテーマに関連したボランティア活動上の悩み等をまとめる。
9月4日	土	① 日本の高齢者の生活・実態を知る（中道）	
9月5日	日	② 加齢変化を理解する（中道）	
9月6日	月	③ 高齢者の生理学について理解する（平居）	
9月7日	火	④ 栄養学の基礎の基礎の理解（平居） ⑤ 高齢者の栄養ケアについての理解（平居）	
9月8日	水	20:00～22:00 オンライン質疑応答	Zoom
9月9日	木	動画で学ぶ II	YouTube 上の 4 つ動画を 9/13 までに視聴し、動画を見てわからなかったことや、これらのテーマに関連したボランティア活動上の悩み等をまとめる。
9月10日	金	⑥ 健康寿命や介護予防の概念を理解する（塚田）	
9月11日	土	⑦ 高齢者の運動についての理解（塚田）	
9月12日	日	⑧ 高齢者の体力測定についての理解（中道）	
9月13日	月	⑨ 楽しい地区活動例（羽咋社協）	
9月14日	火	20:00～22:00 オンライン質疑応答	Zoom
9月15日	水	自主研修（移住地ごとの話し合い）	
9月16日	木	自主研修（移住地ごとの話し合い）	

9月17日	金	20:00～22:00 意見交換 「日系社会における介護予防活動の展開方法について考える」	Zoom
9月18日	土	自主研修（パワーポイント作成）	
9月19日	日	自主研修（パワーポイント作成）	Mailにて事前提出
9月20日	祝	自主研修（パワーポイント作成）	
9月21日	火	20:00～22:00 成果発表及び閉講式	Zoom

#### 4. 研修目標・評価指標

##### (1) 研修目標

日本の高齢社会で明らかになってきた介護予防に関する知識を習得し、健康寿命の促進に向けて現地での活動に活かしていくことを目指す。

##### (2) 指標

日系社会で高齢者福祉のシステムや人材育成に関して、個人的なスキルアップのみならず、組織的に今後のことについて取り組んでいくための具体的な活動を計画できる。

#### 5. 達成度

研修最終日の成果報告において、移住地ごとに今後、取り組む内容について発表できた。

アスンシオンでは、1名の研修員によって、以下の3つの目標を立て、それに対してそれぞれプランを作成した。

目標1.高齢者への励ましと見守りで、介護予防やフレイル予防につなげるに対する活動として  
◆「電話声かけ」の充実◆高齢者 Zoom お茶会の実施。目標2.高齢者の状態に合わせた食事の工夫に対する活動としては◆調理の方法を学ぶ勉強会の開催。目標3.ケアボランティア・運営委員・日本人会事務局のチームワークに対しては、◆効果的な話し合いの場をつくる。

アマンバイでは、2名の研修員によって、プラン立案された。

コロナ禍でも◎家庭訪問で庭先からの挨拶。◎電話をかけてお話をする。

◎折り紙、ぬりえ、手芸などの材料を届けて各家庭で作ってもらい展示。

◎週末のゲートボール競技前の準備体操を月に1回ボランティアが行う。

◎小グループで屋外に集まって自由におしゃべり。

コロナが終息したら、デイサービスの再開や家族と一緒に食べようの会を開催し、体力テストを行う。また、お誕生会・高齢者のピクニック・健康診断を行う。他地区のボランティアとの交流も行っていきたい。

ピラポは、2名の研修員によって、プランの立案がなされた。コロナ禍でできることとして、ボランティアが定期的に高齢者宅を訪問する。

訪問の際には、高齢者に「役割」を持ってもらう意味で、手作業を依頼し、次回の訪問時に回収する。回収したものは、ボランティアが組み合わせて、茶話会時に飾ったりする。訪問時には、草の根支援事業に向けて、訪問時に高齢者が自宅でどんな運動を行っているかを聞き取る。

また、ボランティアがオンラインに慣れたら、ピラポの高齢者と、羽咋市の高齢者との交流方法も模索する。(例えば、インタビューの動画を交換するなど) 今後は、日本人会に所属している人だけでなく、パラグアイ人など非日系人とも一緒に活動をしていけるように10年位の年月をかけてじっくり話し合いながら取り組んでいきたい。

#### 6. 研修コースに対する所見

##### (1) 研修期間、研修内容について

動画の内容は昨年度と少し変えただけで、大きくは変わっていない。基本的に1週間で4～5本

の動画を見て、学びを進めていくものである。動画は加齢や介護予防の知識をつけるものと、羽咋市の実際の様子を知る内容のもので構成されている。動画は何度でも繰り返し見ることが可能という点で、今回も講評であった。

昨年度の研修では、具体的なアクションプランを立てるにあたっての時間がタイトであったことから、今年度はその時間をもう少し長くとしたスケジュールとした。結果、昨年度よりも慌ただしさはなかったものの、良いものをつくろうとすると時間は更にあれば良いと思われた。しかし、これ以上長期にわたると、研修員の疲労も大きくなることが予測され、今回の期間ぐらいがちょうど良いのではないかと思われる。

## (2) 研修効果を高める工夫

研修員の日本語能力では、日常会話はできるものの、資料の漢字などがわからないことがあったため、オンライン教材は、できるだけ平易な表現とし、漢字にはルビをうって対応した。限られた質疑応答の時間を有意義にするために、質問や感想をあらかじめ締め切りを設けてメールで送っていただき、大学教員と羽咋市社会福祉協議会のスタッフとで担当を決めて、回答やコメントをスムーズにできるように準備を進めた。また、昨年度は一部のディスカッションが休日に行われた。今回は全て平日にディスカッションできるようなスケジュールとなるよう工夫した。前回の遠隔研修に比べ、今回は Zoom 実施時の音声の不具合が少なく、研修員の発言も少しずつ増えていった。しかし、質疑応答の Zoom の途中で研修員が退出してしまうアクシデントもあった。そのようなことがあり、Zoom での質疑応答では、録画をしておくこととした。結果、その時の録画を研修後に見返して復習が出来てよかったとの声も聴かれた。

## (3) 研修運営体制について

研修実施機関である看護大学と羽咋市社会福祉協議会、JICA 北陸の 3 機関で協力・連携して実施できた。また、JICA 北陸から、JICA パラグアイ事務所と連携し、現地の状況について伺いながら研修準備を進めていただき、研修中にもオンライン環境や修了証など細々とした面で研修運営をサポートいただいた。JICA パラグアイ事務所とパラグアイ日本人連合会との連携もあり、研修生の資料のプリントアウトなどのご協力が大きい。

## 7. その他、特筆すべき活動実績及び成果

今年度は、研修中に、ピラポ日本人会の方々と草の根技術協力事業に関しての話し合いの場を設定した。また、過去の研修生にもプラン立案を手助けしていただくことができた。





## 4 そ の 他





## 4-1 かほく市との包括的連携協定に関わる取り組み

### 1. 令和3年度の取り組みについて

平成22年10月に石川県立看護大学とかほく市が包括的連携協定を締結し、本格的な活動を開始して11年目を迎えた。

本年度はかほく市が幹事となり、2回の協議会を開催した。

7月12日(水)第1回協議会：令和2年度の事業実績報告および令和3年度事業案について

12月20日(月)第2回協議会：令和3年度事業の進捗状況報告と令和4年度の計画立案について

今年度は、かほく市から11事業、石川県立看護大学より2事業が提案された。昨年度に引き続き、すべての事業を実施することはできず、縮小して実施するなどにとどまった。また、石川県立看護大学から提案された「高齢者と看護学生との交流事業」については、今年度は対象者宅への訪問は中止し、代替活動として、12月に学生から対象者への手紙による交流を実施した。しかし、コロナ禍の状況でも、感染予防策を講じつつその他の事業が実施できたことは、今後の実施に向け大きなアイデアが得られたと思う。

特に、コロナ禍の中で、自宅に引きこもりがちな高齢者を対象とした「高齢者と看護学生との交流事業」では、新型コロナウイルス感染症予防のため、対象者宅の家庭訪問は中止。7月に3年次学生80名によるお手紙送付を実施した。「いきいきシニア活動推進事業」では、今年度もコロナ感染対策を講じ、会場を広くするなど工夫し、4回実施した。第1回は9月6日「生体リズムと生活習慣病」平居貴生教授、10月29日は「たこ、うおのめ、傷の治し方」木森佳子准教授、11月26日は「あなたの眠り大丈夫？」桜井志保美教授が、12月13日は「苦しみの中でも見出せる人生の価値」牧野教授が実施した。

	主催	事業(市担当課)	看護大担当
1	かほく市	かほく市ケーブルテレビ事業(情報推進課)	垣花教授他
2		健康ブランド化事業(健康福祉課)	垣花教授
3		発達障害に関する相談事業(健康福祉課)	大江講師
4		いきいきシニア活動推進事業(長寿介護課)	塚田教授他(地域公開講座)
5		地域支援事業(長寿介護課)	川島教授、金子准教授(会議への参加)
6		通いの場における介護予防事業(長寿介護課)	川島教授
7		家族介護者教室(長寿介護課)	(ヘッドマウンテンディスプレイの貸出)
8		かほく市体力テスト(スポーツ文化課)	平居教授
9		問題を抱える子ども等の自立支援事業(学校教育課)	武山特任教授
10		教育相談事業(学校教育課)	武山特任教授
11		妊娠期から切れ目のない育児支援事業(子育て支援課)	米田教授
12	看護大	高齢者と看護学生との交流事業(長寿介護課)	金子准教授
13		市民防災講座(防災環境対策課)	金谷准教授

### 2. 令和4年度に向けての事業実施についての検討

令和3年度はCOVID-19新型コロナウイルスの影響で、中止せざるを得ない事業があったが、今後は感染予防対策を講じつつ、地域の人々がより健康な生活ができるよう、本学の知恵と技術を活かした事業を検討していきたい。また、かほく市の学校教育課、健康福祉課、長寿介護課といった各課の垣根を越えて、かほく市との包括的連携協定に基づく事業の実施をしていきたいと思います。

今後は、石川県立看護大学の新採用の教員や若手教員の新鮮な意見や専門性を活かしつつ、かほく市のご協力を得て、研究フィールドを広げるきっかけにもなるような取組ができればと思います。



石川県立看護大学附属地域ケア総合センター

## 事業報告書（第19巻）

令和4年6月発行

発行：石川県立看護大学附属地域ケア総合センター

〒929-1210

石川県かほく市学園台1丁目1番地

Tel.076-281-8308 Fax.076-281-8309

© 2015 Ishikawa Prefectural Nursing University.  
All rights reserved.

著作権は石川県公立大学法人に帰属する。

